

模擬犯罪中に起きたイベントが ポリグラフ検査の生理反応におよぼす影響

○中山 誠¹ 黒川 優美子²
 (1関西国際大学人間科学部) (2非関西国際大学人間行動学科)

はじめに
 CITはウソ発見と言うよりも犯行内容の詳細事実に関する認識の有無を生理指標で検討する手段

模擬犯罪中、部屋に、突然、入ってきた見知らぬ者に声をかけられる

Pethら (2012)
 模擬犯罪中に発生するイベント→記憶の符号化を強める→ CITで裁決・非裁決に対する生理反応の識別性が高まる

刃物で人物や果物の写真を刺す

大杉ら(2006)は検査前に情動性の高い行為→その後のCITの検査では犯行用具(刃物)に対して顕著な生理的变化

本研究では前者を**他者覚醒行為**、後者を**自己覚醒行為**として、**イベントのないコントロール群**と比較

方法

実験参加者：健康な男女大学生48名 (18-22歳)
 測定指標 模擬犯罪：HRのみ (テレメータ)
 CIT検査：SCR、HR、呼吸運動
 質問紙：日本語版UMACL短縮版(白澤ら、1999)
 模擬犯罪：CIT検査の1週間前に実施
 群の構成：自己覚醒、他者覚醒、コントロール群
 質問呈示：ディスプレイに被害品の写真呈示、ヘッドフォンから、「あなたが盗んだのは○○ですか」の音声
 実験参加者は「イエ」と返答
 5項目1セット * 5回反復呈示 (SOA30秒)

模擬犯罪

指示された別室に行き、出入り口のカギを開けて中に入る



テーブルの上に置かれた瀬戸物の貯金箱から任意に1コを選択

コントロール群

自己覚醒群

他者覚醒群

模擬犯罪中、部屋に、突然、入ってきた見知らぬ者に声をかけられる

貯金箱の裏蓋を空け指示書を読む (被害品の決定)

貯金箱をハンマーでたたき割り、指示書を読む (被害品の決定)

貯金箱の裏蓋を空け指示書を読む (被害品の決定)

指示書に書かれた品物ひとつを見つけ出して、盗む



1週間後にCITの検査

結果

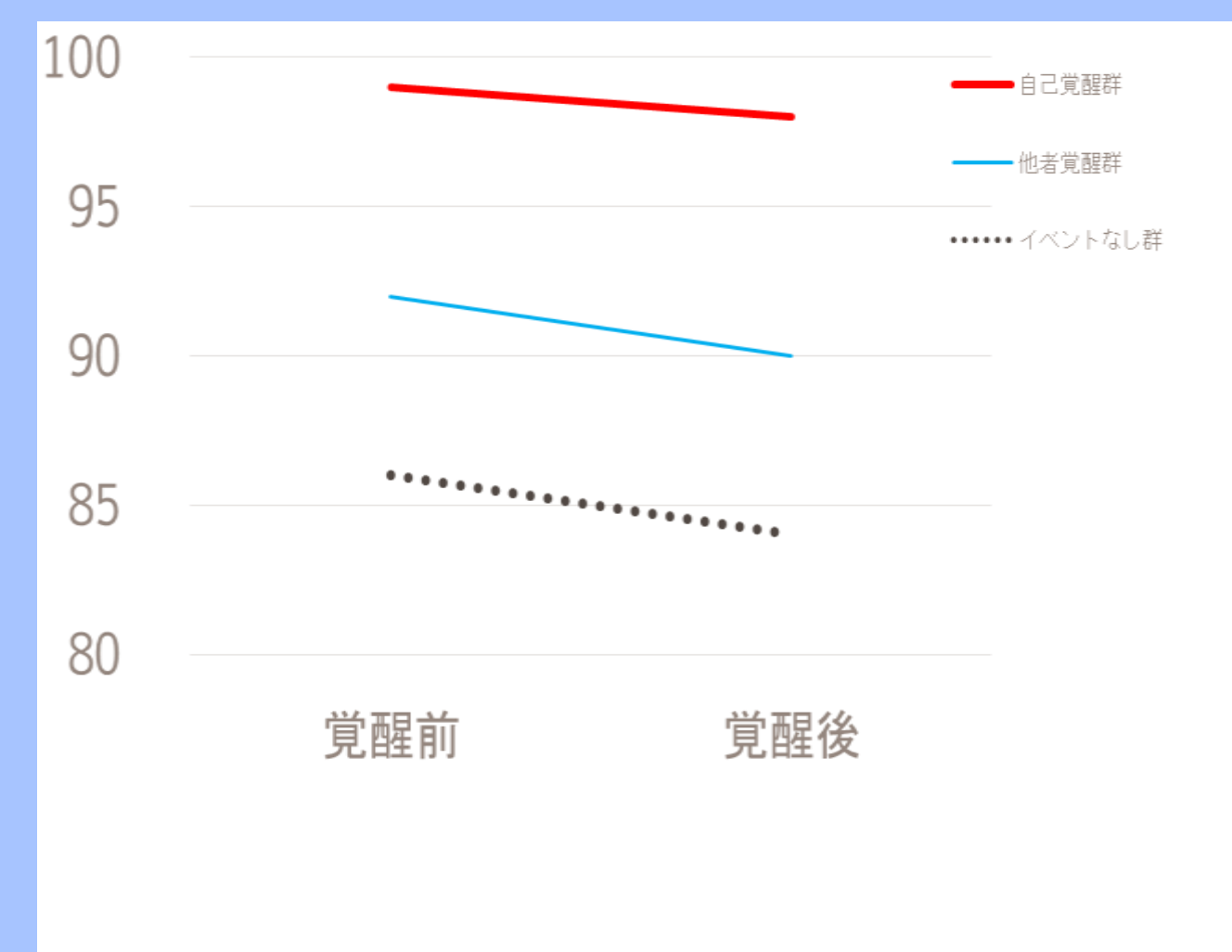


Fig.1 模擬犯罪中のHR 群の主効果有意

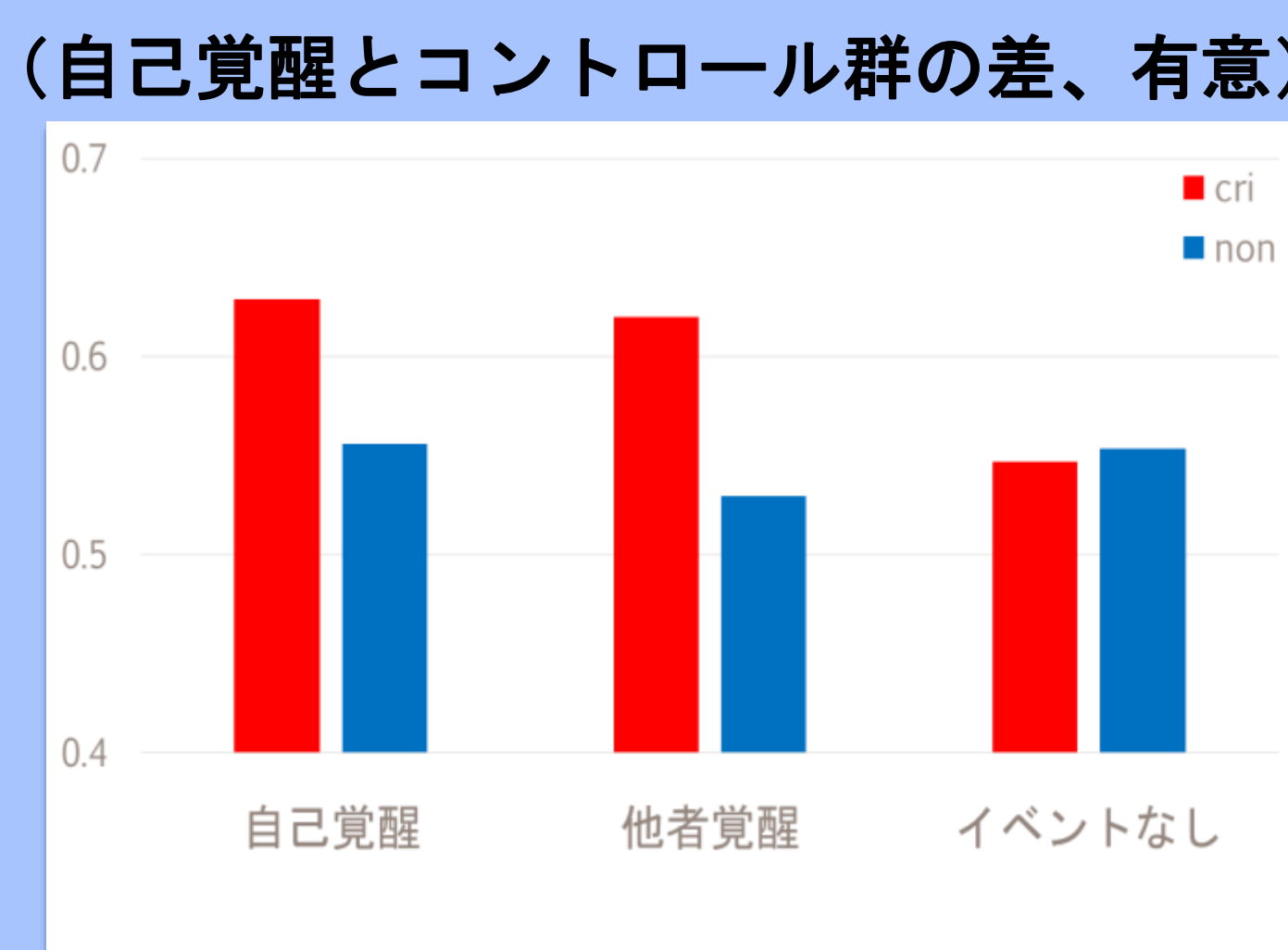


Fig.2 SCR 群と質問内容の交互作用有意

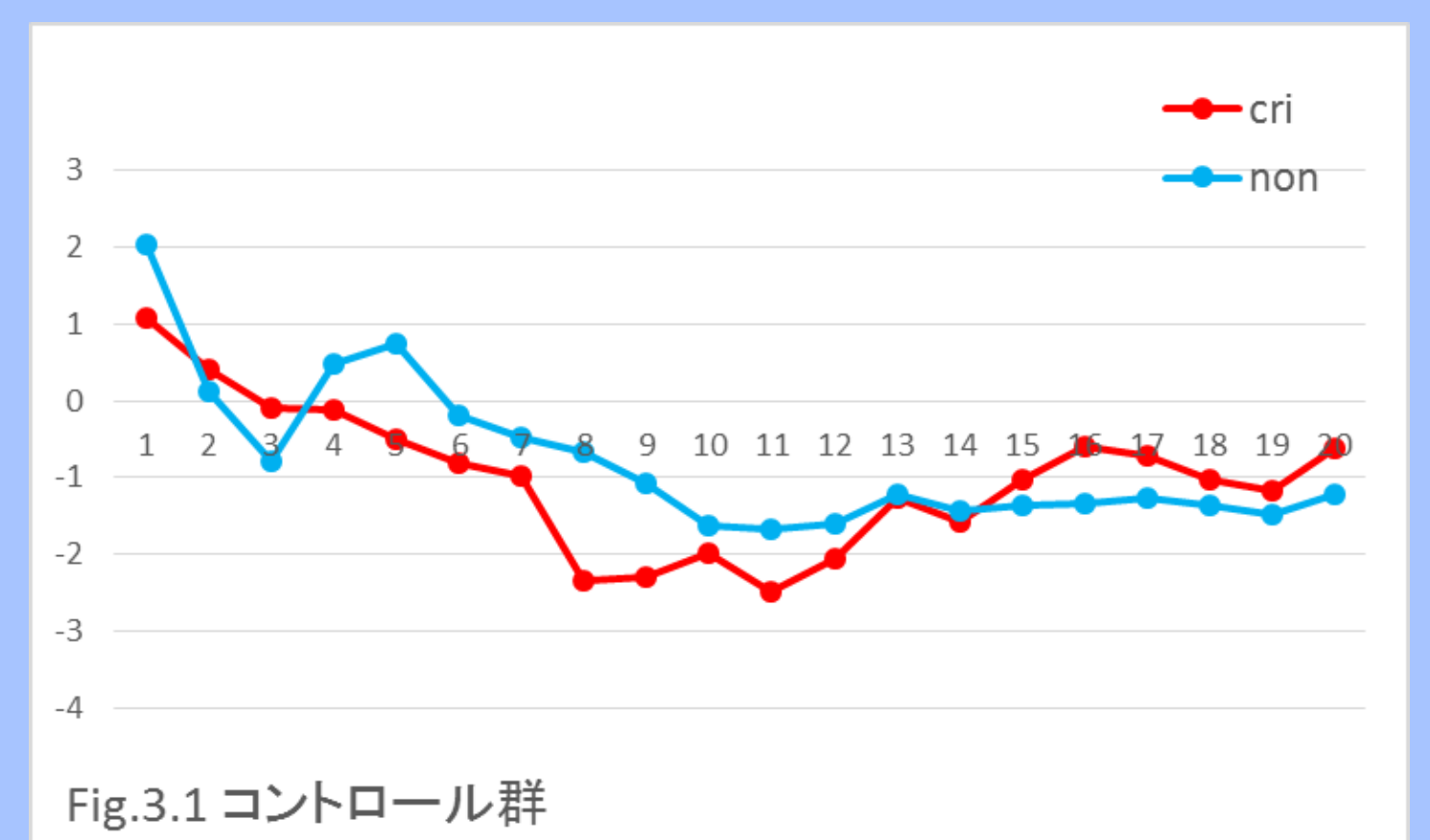


Fig.3.1 コントロール群

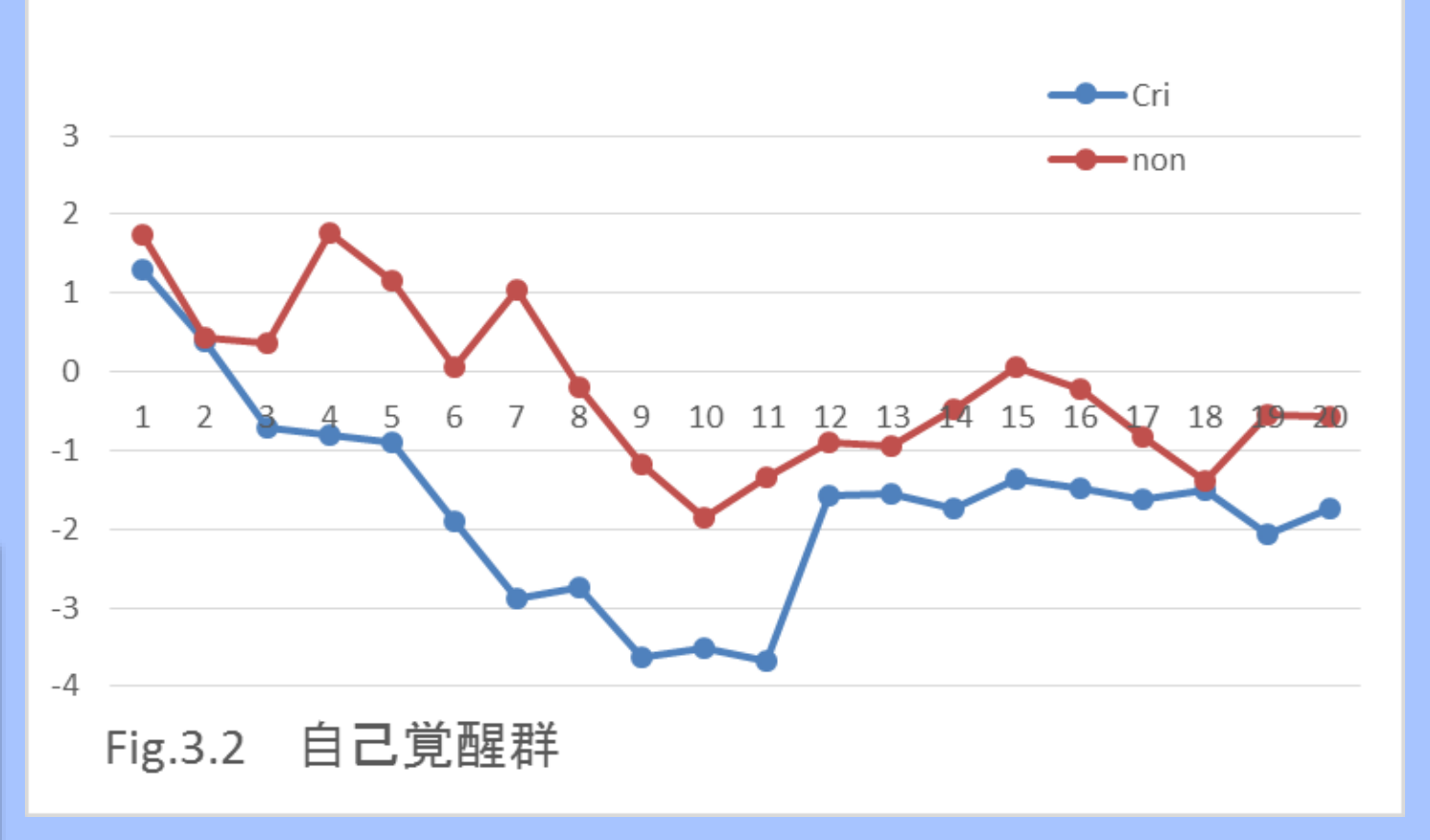


Fig.3.2 自己覚醒群

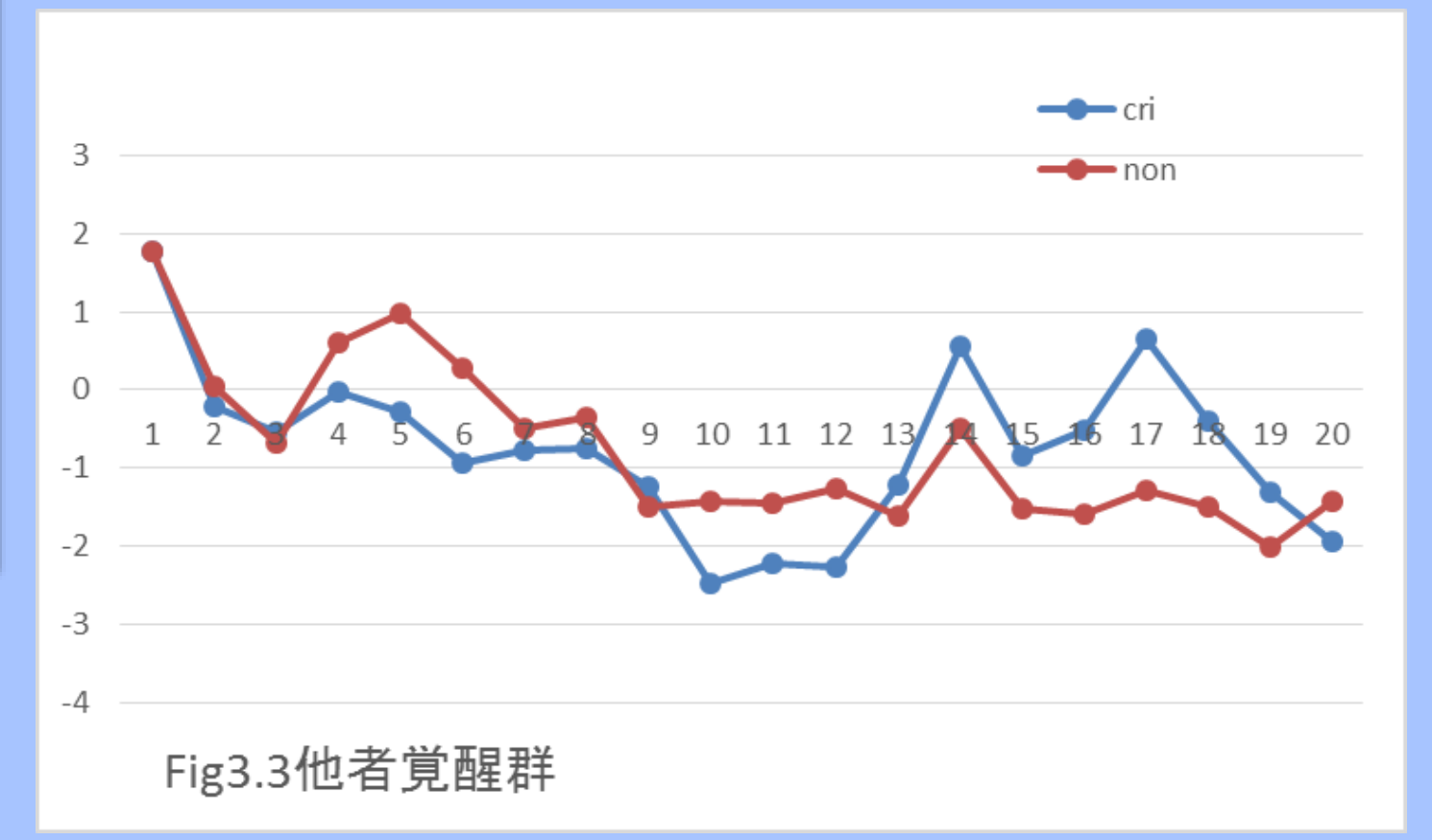


Fig.3.3 他者覚醒群

Fig.3 質問開始後のHR果

自己覚醒群でのみ、質問内容と経過時間の交互作用有意

まとめ

- 1 自己覚醒群は、「貯金箱をハンマーでたたき割るように」と指示された時点から緊張感が高まる (模擬犯罪中のHR)
- 2 SCRの結果では、自己覚醒≧他者覚醒>コントロール群 → 覚醒行為間での差はない
- 3 HRについては、自己覚醒>他者覚醒≧コントロール群 → 自己覚醒のみ裁決と非裁決の識別可能
- 4 自己覚醒は裁決項目への符号化の向上よりも、貯金箱破壊行為により模擬犯罪全体が覚醒 → 1週間後のCIT検査でHRにのみ強く反映